


LOA応用栽培のリンゴと一般の栽培リンゴの比較実験

<p>2011.11.17</p>		<p>平成23年11月</p> <p>見事なリンゴが実りました。(恩田園)</p> <p>※恩田園はLOA農業資材を使い始めて3年経過 資材名 : LOAアースパワー(土壌改良ミネラル資材) LOAグランドバイオ(ウズラの糞の完熟堆肥) LOAグッドEEn(総合アミノ酸葉面散布剤)</p>
<p>2012.4.27</p>		<p>左のリンゴが恩田園産、右のリンゴは長野県松本市のリンゴ園産 (一般のリンゴ園)</p> <p>11月下旬から常温で放置して観察開始 (場所: ㈱コンタクトの本町営業所玄関にて)</p> <p>約5か月後の今年4月末の状態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恩田園のリンゴはシミのような状態が現れ始めた。但し、シミ以外のところは収穫時の艶がそのまま残っている。 ・右の松本産は早くからシワが目立ち始めていた。 <p>注: 観察の場所のコンタクトの営業所内は環境エネルギーが貴くなっています。</p>
<p>2012.6.7</p>		<p>大分外気温も上がり始めてきた6月上旬</p> <p>左上と上の画像は恩田園のリンゴ、左下の画像は松本産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恩田園のリンゴからは樹液みたいに液が流れ出していた。その液を指で触ると、上の画像で分かるように蜜のようにトロツとした感じである。 匂いも甘い香りが漂い、舐めると蜜のように甘い。これは腐敗ではなく発酵していることが分かる。 発酵している部分以外はまだ硬く、シワも現れていない。 <p>← 一方、松本産のリンゴはリンゴの赤みも無く、シワが更に深くなり色も落ちてきて生気が感じられなくなっている。</p>
<p>2012.6.14</p>		 <p>上の二つの画像は、6月7日から一週間経過した松本産のリンゴの状態。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腐敗が進み、液が噴き出し始め、カビと腐敗臭が出てきた。液を恩田園のリンゴ同様に、指で触れてみたが、水のようにサラツとしていた。 <p>※これ以上の保存は困難且つ無意味と判断して、ここで廃棄することになりました。</p>

LOA応用栽培のリンゴと一般の栽培リンゴの比較実験

2012.10.20



そろそろ今年のリンゴの収穫が始まろうとしている10月下旬。

収穫から約1年過ぎようとしている恩田園のリンゴの今の状態です。



・一瞬見ただけでは、リンゴとは思えない形になってしまった。
中心部の珠孔(茎)はしっかり見えている。

・ここまでくると、腐敗しているか、いないかの確認を匂いでしか確認できない。

・匂いを嗅ぐと、発酵後の正にアルコールの匂いである。

・多分、このままの状態でも更に保存できる可能性はあるが、
今回の比較実験はここで終了とします。

※LOA応用の果樹栽培におけるビククリ現象の一つと捉えている。
他のくだものや穀物、加工食品、鶏卵(ウズラの卵)でも
このような現象が現れています。(腐敗に進まず、発酵する)

なぜか? 貴い環境エネルギーの成せる技というしかありません。

※昨年(2011年)の恩田園のリンゴは -8°C で凍らなかった。 $(-13^{\circ}\text{C}$ で凍った)
という驚くべき事実もあります。